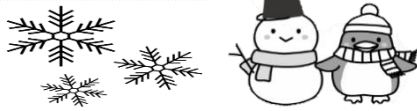


# てんびんガイド だより



近江八幡観光ボランティア  
ガイド協会 広報部  
近江八幡駅北口観光案内所内  
TEL 0748-33-6061  
FAX 0748-32-4125  
https://www.omi8guide.com

## 今年も厳寒の中での厳かな祈りと新たな決意を

～2022(令和4)年1月7日 新年祈願祭 開催される～

2022年1月7日午前10時、曇り模様の寒波の中で新年祈願祭が日牟禮八幡宮で39名の会員参加で滞りなく執り行われました。拝殿において、神主による神事、参加者全員での二礼、二拍手、一礼、平松会長による玉串の奉納、巫女による神楽鈴を持つての優雅な神楽舞いに感動し、気持ちが凜としました。

2022年は感染症が終息し、近江八幡の観光ガイドが安全に出来る事を祈願いたしました。(広報部記)



恒例の拝殿前にて

## 迫る、期待高まる、『創立30周年記念通常総会および記念式典と講演会』

～2022(令和4)年4月27日(木) 近江八幡市文化会館にて～

来たる3月24日に、近江八幡観光ボランティアガイド協会は創立30周年を迎えます。これを記念して式典と記念講演会を開催いたします。制服/名札着用で全員参加をお願いいたします。

- ・日時 2022(令和4)年4月27日(木) 12:30～15:30(予定)
- ・場所 近江八幡市文化会館 小ホール
- ・日程
  - 2022年度通常総会■
    - 12:30～13:20 ・開会・会長挨拶・事業報告/決算報告
    - ・事業計画/予算提案・役員改選・集合写真撮影
  - 創立30周年記念式典・講演会■
    - 14:00～14:30 ・開会・会長挨拶・来賓祝辞・来賓/賛助会員紹介・永年活動者表彰
    - 14:30～15:30 ・講演「ボランティアガイド設立と観光(仮題)」
    - 講師：村井幸之進様(元近江八幡市商工観光課勤務)

## 久々に忙しくなった2021年の秋

—10~12月は、従来とちょっと変わったガイドが多くありました—

コロナの緊急事態宣言が明けた2021年の10~12月は、催行回数やお客様数が多いガイドや学校関係の申し込みが多くありました。また、従来と異なるコースやガイド要求がありました。担当したガイドの声を拾ってみました。(広報部)

日時	ツアー名	特異点(概略)
9/24~12/7	かもめツアー	コロナ余波で全21回が、10/28までキャンセル
10/8	安土小学校	安土小学校は初めての支援ガイド・3コース
10/24~11/28	近江スマイルツアー	全4回で200名様を沖島で待合わせてガイド
11/11~15	西川甚五郎邸特別公開	5日×AM/PMの計10回(街並みガイドとセット)
11/16~26	ひらしん	6日×AM/PMの計12回で、530名を1hで
11/19~12/6	クラブツーリズム	6日間で9回のガイド出動
12/7	小牧市立味岡小学校	海なし県の漁村ガイド、4クラス160名
12/17	岐阜商業高校	バス8台の340人を8ヶ所での定点ガイド
~1/29	JTB旅物語	Gototravelが実施されず、全てキャンセル

### <その1> 西川甚五郎邸特別公開のガイドを終えて

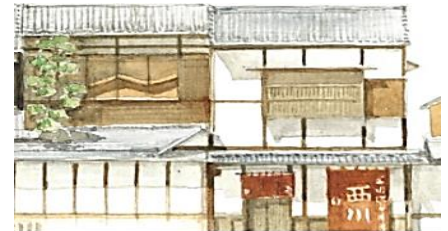
松村道子

11月14日、日曜日、晴れ。小幡駐車場へ9時過ぎには西川甚五郎邸特別公開に申し込まれた方達が集まって来られた。県外からも6名のグループが来られ、総勢15名。ガイドは園田さんと二人で担当。私のお客様は地元の方達。いつものように駐車場で挨拶して新町通りに。朝鮮人街道や資料館等をお話したが、そんな事知っているよと・ちょっと話しにくい。

なんとか八幡堀、ヴォーリズ像、白雲館をまわり10時半前に西川家のチャイムを押した。すぐに開けてくださり、靴を脱いで上に上がらせて頂いた。ここから先はお目当ての場所で皆さん興味深々。奥村支配人から西川家の歴史の説明があり、その後、邸内を案内して頂く。この家には12代までの当主がここで生

活しておられたそうで、2階は外から想像出来ないような大正ロマンの洋間で調度品もすばらしく、ステンドグラスやシャンデリアがあり「わあ、すごい」と思わず声が出てしまうような造り。このお家は江戸・明治・大正・昭和の建物がつながり、見所がいっぱい。それがきれいに手入れされ、きちんと残っているのが素晴らしいですね。

お客様も皆さん、とっても満足のように大変喜んでおられました。



### <その2> 総人数530名のガイドをコーディネート

松本共子

11月16日から、全12回の「ひらしん(枚方信用金庫年金)友の会」様のツアーの総合リーダーを行いました。ガイドは述べ48名で、お客様530名の街並み散策でした。当初、お買物時間を含んで1.5hの予定でしたが、到着時間が30分程度遅れたり、行程の変更が都度添乗員からの申し入れがあったり、各ガイドに周知するのに苦労しました。あるグループでは、添乗員ではなく信金の方より直接に時間短縮の申し入れもあり、戻り時間に混乱が生まれました。また、寒さのため境内での再集合を待たずにバスに戻るお客

様もあり、所在確認に時間をとられました。そこで、後半の6回は、先方と相談して、到着してから1hの滞在時間としました。ですから実質40分のあたたかいガイドとなりました。担当されたガイドには、時間的な無理をお願いしたことと臨機応変な対応をしてくださったことに感謝いたします。私自身も大変でしたが、やり切ったことで大きく成長できたと感じています。ツアー終了後、添乗員さんからお礼のメールがきたことも嬉しかったです。

### <その3> 小牧市立味岡小学校の生徒に漁村風景のガイドをして

松本三郎

12月7日に小牧市立味岡小学校の生徒約160名(4クラス)の沖島ガイドを行いました。当校は岐阜県の山の中の小学校につき、漁村風景及び島の生活が学習

の目的です。4クラスを各3班(12名)に班分けしてガイドは全6名で2回づつの案内でした。

休暇村西館を出発して休暇村棧橋から第二善通丸



にてピストン運転で沖島に到着しました。沖島でのガイド開始前の挨拶で、生徒に沖島に

ついての学習について確認したところ、全然やっていないとの事。取りあえず今回の目的の漁村風景及び島の生活を見てもらうため、漁港及びホンミチを見てい

ただきました。沖島は淡水湖で人が生活している島としては、世界で3島しか無いという説明で初めて感嘆の声がでました。約30分の時間でしたが、無事終了となりました。第二善通丸での輸送は40名程度ですので、4便となり私は1便と2便の担当でした。

今回のガイドについて私的な感想は、学校行事及び観光ということで有ればもう少し事前学習をして来てほしいなと思いました。

## <その4> 岐阜県立岐阜商業高等学校を8ヶ所の定点ガイドで

毛利由夫

2021年12月17日2年生340名が「近江商人について学ぶ」その校外学習として本市を訪れました。

第一部は市民会館で西川甚五郎本店の公益財団法人西川文化財団の奥村支配人から「知っているつもり近江商人」のテーマで講演がありました。内容は「財団の内容」「近江商人のルーツ」「近江商人とは」「西川甚五郎＝山形屋の歴史」等々を話され、熱心に聞きメモをとっていました。その後市営小幡観光駐車場と多賀観光駐車場へ移動しました。

ガイドは、各駐車場（四台）でバスに乗り、最初に市や観光の概要を説明し、八ヶ所での定点ガイドのため各持ち場へ移動しました。伴庄右衛門邸前・西川

利右衛門邸前・ヴォーリズ像前・新町前・白雲館前・西川甚五郎邸史料館前・日牟禮八幡宮楼門前・かわらミュージアム前に生徒は回ってきました。熱心に聞きメモをとる生徒がいましたが、コースの道筋が分かっていないことや興味の程度、また、場所によっては通りになっている所など混み合うところもありました。今後のガイドのあり方を考えさせられました。



## 研修では体験できなかった波乱の冬の实地研修



### ●二流から一流を目指して！フォローアップ研修（实地研修）にて

初めての成田傳良

12月18日（土）、午後からの实地研修に参加。当初の予定がBコース、研修2日前にAコースに変更となり、さらに前日にコースの下見を終わり翌日の天気予報は雪マークに。まだ今の時期積雪の量の心配はないと思っていましたが、夜に外の状況見ると雪が降ってるのを見て、これは大変なことになると気が気ではありませんでした。目が覚めると一面雪景色だったので、研修コースの下見に行くと雪がまだ道に残って



ましたので、残り雪で滑ることも考えられるし、屋根からも落雪が考えられる状態でしたので新町筋の道の雪を撤去し研修の準備をしました。新町筋では、

西川邸の前が工事中になっており片側通行の状況で研修開始、足元の悪い中スムーズにスタートが出来たのですが八幡堀近くでは少し雨が降ってきて、対応に戸惑いました。雪道に雨の中、お客様を如何に安全に誘導案内するおもてなしの難しさを今回の实地研修で体験する事が出来ました。本日のAコースのガイド研修は思っていた半分も出来なかったことを反省しています。先輩ガイドからは説明する時の立つ位置とお客様に対して視線が合う位置に立つ、自分では気が付かないご指摘を頂き勉強になりました。今後もおもてなしの気持ちを忘れずに安全に誘導、案内が出来るように頑張ります。二流から一流のおもてなしが出来ると目指して頑張りますのでご指導の程、よろしくお願いたします。

## ●再指摘だけは受けないと心に刻み・・・

心とは裏腹に晴天の中、2回目のフォローアップ研修が12月11日に行われました。今回は1回目の時と同様平松会長はじめ5名の先輩ガイド諸氏と今年新たに入会された方の6名による評価があり背筋が伸びる研修となりました。なにしろ初回のときはなんと矢継ぎ早に30箇所もの指摘、指導をお受けし書き留めるだけで精一杯の状態でした。こちらへ来てくださいの安全誘導がなかった、煙突の見えないところで煙突の話をしていて、時間が超過した、家訓など見えないものは書いてみせよ、などなど結果まとめをする

## 2回目の広川哲朗

気になったのは三日後のことでした。そんな貴重な経験もあり、安全誘導と時間厳守はしっかりその再指摘だけは受けないことを心に刻み今回に望みました。1回目の大失態をご存知の先輩諸氏は格段の進歩だと付け加えてはいただきましたが10項目余りの指摘をいただきました。まだまだ胸を張れる状況ではありませんでしたが長い歴史の近江八幡ボランティアガイド協会の高いレベルが保たれている理由が先輩方々の伝統の愛のムチにあることを確かめる1日になりました。お世話になりありがとうございました。

## ●自己研鑽を重ね、ガイドレベルの向上を

一年遅れで3回目のフォローアップ実地研修を終えることができました。

先輩ガイドを案内する緊張と久しぶりのガイドということもあって、とても拙いガイドになったと猛省する結果となりました。先輩ガイドからは、時間配分の偏り、後続への注意不足、ガイド内容の要点漏れなどについてご指摘を頂き、また年号などを伝える際に、その年代に起こったエピソードなどを添えると印象に残る。昨今、ネット等で事前に調べて来幡される方も

## 3回目の萬木達夫

多いので、地元ガイドでしか聞けないことを期待されている、などのアドバイスも頂くことが出来ました。先輩ガイドの皆様には、寒い中にも拘わらず後輩ガイドのレベルアップのため、ご足労頂きましたこと、改めてお礼申し上げます。自己研鑽を重ね、ガイドレベルの向上と先輩諸氏の様にガイド協会の継続と発展の為、積極的に協会活動へ参加することの大切さを再発見した研修となりました。

### ■ 知っ得コーナー ■

### 『三方よし論』

平松清廣

「三方よし」という言葉は、現在のところ存在する文献の中で初めて論究されたのは小倉榮一郎氏の1988(昭和63)年発行の著書「近江商人の経営」とされています。小倉氏は当時、滋賀大学経済学部教授で経済学博士です。

「近江商人の経営」では、『初代伊藤忠兵衛は熱心な仏教信者で、「商売は菩薩の行」と説いたが、その心は「商売の尊さは、**売り買い**何れも益し、**世**の不足をうずめ、御仏の心にかなうもの」という共存共栄の精神である。同じく、外村与左衛門家、中村治兵衛家、山中利右衛門家にも同じ精神がある。』と書かれています。

→「三方よし」という言葉は江戸時代には存在せず、近江商人研究で初めて用いたのは小倉氏であった、ということは間違いのない。そして、初代伊藤忠兵衛のなかの言葉の精神が「三方よし」だとしています。

1991(平成3)年発行の著書「近江商人の経営管理」では、『**売り手よし、買い手よし**、すなわち顧客にも喜んでもらうというのは取引であるから当然のことである。近江商人にはその上に「**世間よし**」が加わって「三方よし」という主旨となった。これは近江商人特有のものとして300年生き続けた理念である。』と書かれています。

1991(平成3)年発行の著書「近江商人の理念」では、『江戸時代、幕藩体制の中で、体制からはみ出していた近江商人が、その存在価値をどのように認めてもらい、存続を許されたか。**売り手によし、買い手によし**は常識で、顧客は王様などともいうが、**世間によし**という三つめが近江商人の特色で、自分の商場(あきないば)に貢献したが故に存続しえたのである。』

→「三方よし」を造語した小倉氏は最終的に「**売り手によし、買い手によし、世間によし**」と表記しています。日本語的には小倉氏の表記の方が正しいですが、しかし、実際に流布したのは「に」抜き表現の「**売り手よし、買い手よし、世間よし**」であり、標語として語呂もよく、一般的になっています。江商人研究はまだまだであり、新しい文献・史料が出てくると新しい解釈も出てくる余地があります。

・・・滋賀大学名誉教授 宇佐美英樹氏の講座から